

GHGプロトコルと 信頼性のある気候変動 対策の実現に向けて

一貫性と信頼性のある排出量報告の
ためのガイド



目次

GHG排出量の透明性がこれまで以上に重要な理由	03
GHGプロトコルとは何か	04
スコープ1、2、3の理解	05
専門家の見解：GHGデータを企業価値に活かす	06
GHG報告の準備：信頼できる報告のためのチェックリスト	07

GHG排出量の透明性がこれ まで以上に重要な理由

現在、企業は温室効果ガス（GHG）排出量を正確かつ透明性をもって、責任ある形で開示することを強く求められています。この要求は、規制の進展、利害関係者の期待、そしてネットゼロに向けた真の進展を示す必要性によって加速しています。

この世界的な変化の中心にあるのがGHGプロトコルです。これは、排出量の測定と管理において最も広く使用されている枠組みであり、企業がGHG排出状況を把握し、コンプライアンスを満たし、利害関係者との信頼関係を築くための構造を提供します。

規制の動きは明確です。EUの企業サステナビリティ報告指令（CSRD）だけでも、5万社以上に影響を与え、GHG排出量を含む検証済みのサステナビリティ情報の開示を義務付けています。このような状況では、信頼できるGHG排出量データは単なる付加価値ではなく、企業にとって必要不可欠な要素となっています。

本ガイドでは、GHGプロトコルの基本原則を紹介し、排出量の3つのスコープについて解説します。さらに、LRQAのESGおよびGHG保証の専門家による、信頼性のある排出量戦略を構築するための知見も共有しています。



GHGプロトコルとは何か

GHGプロトコルは、世界資源研究所 (WRI) と持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD) によって開発され、事業活動、サプライチェーン、気候関連プロジェクトにおける排出量算定の国際的な基準を定めています。

このプロトコルは、CDP、SBTiなどの多くの気候関連開示フレームワークや、EUのCSRD、米国で提案されているSECの気候開示規則といった規制制度の基盤となっています。また、GHG検証の国際規格であるISO 14064-1の基盤にもなっています。

GHGプロトコル・スイートには以下が含まれます：

- **企業会計基準**：スコープ1、2、3の排出量を対象
- **スコープ2ガイダンス**：電力、蒸気、暖房、冷房に関する排出量
- **バリューチェーン (スコープ3) 基準**：上流および下流の排出量
- **削減目標基準**：目標に対する削減状況の追跡
- **プロジェクト・プロトコル**：排出削減プロジェクトのための指針



スコープ1、2、3の理解

スコープ3は、最も重要である一方、最も複雑でもあります。これらの排出量は、企業全体のGHG排出量の**70～90%**を占めることもあります**（出典）**。

しかし、その重要性にもかかわらず、**現在スコープ3**の排出量を報告している企業はわずか15%であり、削減目標を設定している企業も同様です**（出典）**。このことは、多くの企業のサステナビリティ戦略において、重大な見落としがあることを意味します。

スコープ1

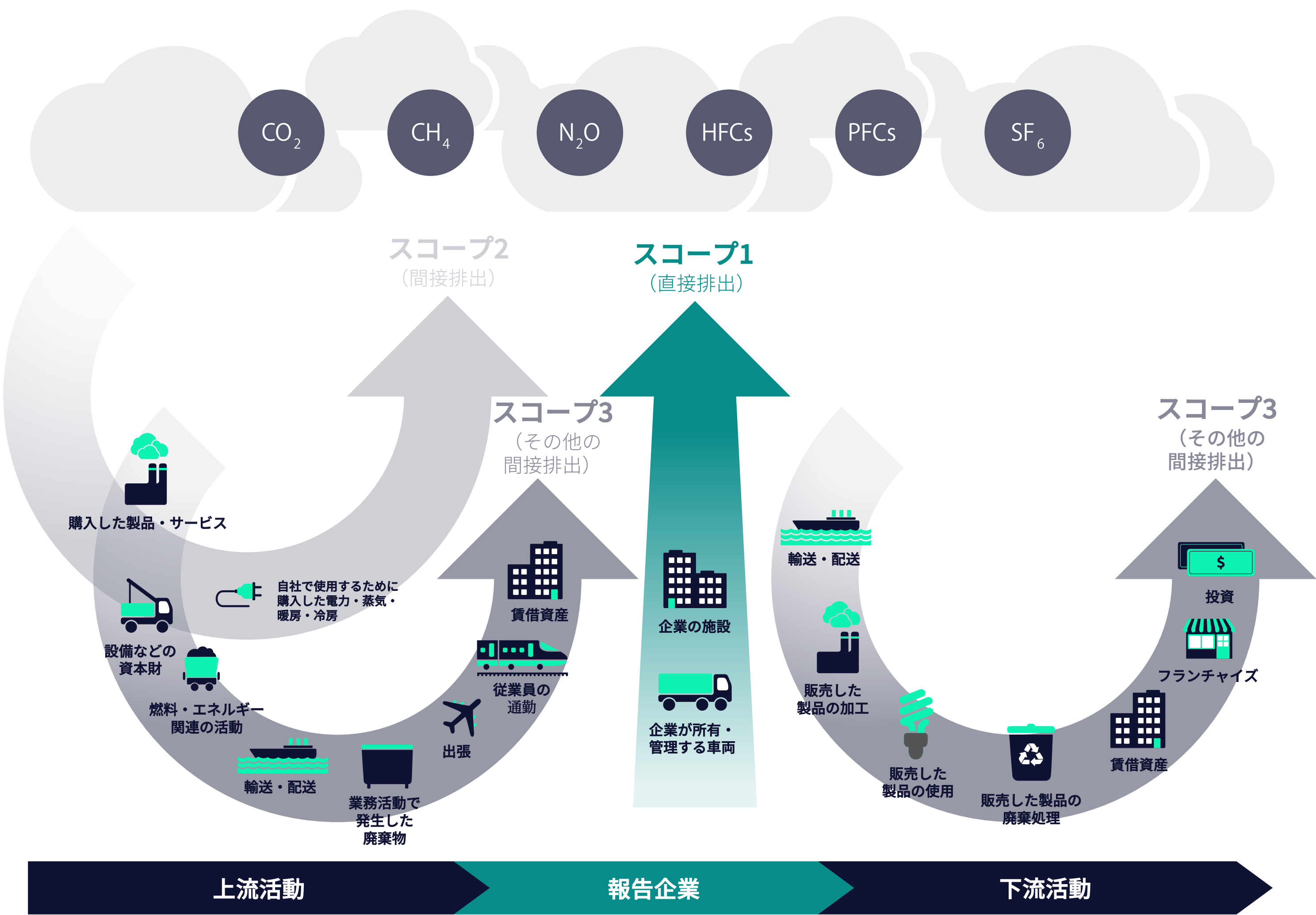
スコープ1排出量とは、企業が所有または管理する施設や設備から直接発生するGHG排出量を指します。たとえば、自社所有の車両による化石燃料の燃焼、製造工程、暖房設備などが該当します。

スコープ2

スコープ2排出量は、企業が購入または取得した電力、熱、蒸気などの使用に伴って発生する間接的なGHG排出量です。これらは第三者の発電所などで発生しますが、企業のエネルギー使用に起因するため、企業の活動に関連付けられます。

スコープ3

スコープ3排出量は、企業のサプライチェーン上で発生する間接的な排出量であり、企業が直接所有・管理していないものです。その性質上、特定・測定・管理が難しく、多様な発生源が存在します。例としては、従業員の通勤、購入した製品、その他の間接的な活動による排出などが含まれます。



専門家の洞察GHGデータをビジネス価値に変える

ESGの専門家であるオルガ・リバスとシルビア・マタブエナに、GHG報告の課題をどう乗り越え、持続可能な排出量戦略を構築するかについて話を聞きました。



オルガ・リバス
気候変動専門家 | EMEA

なぜ今、GHGプロトコルに沿った取り組みが求められているのでしょうか？

オルガ・リバス 「今まさに転換点にあります。規制の要求は加速しており、市場は一貫性と比較可能性を求めています。GHGプロトコルはそれを提供します。CSRDやCDPに基づいて報告する場合でも、ネットゼロを目指す場合でも、このプロトコルは国際的に認知された枠組みとして、データの信頼性を担保してくれます。

また、戦略的な視点を持つことにもつながります。排出源を正確に把握することで、最も重要な領域に優先的に取り組むことができ、単なるコンプライアンスを超えた長期的な価値創出が可能になります。」

信頼性と信用を築くうえで、第三者機関による検証はどのような役割を果たしますか？

オルガ・リバス 「投資家、格付機関、規制当局は、第三者機関による検証を当然のものと見なしています。単に数値を確認するだけでなく、排出量を適切に管理するための体制・統制・ガバナンスが整っていることを示す必要があります。」

最近のデータでは、検証済みの排出量を持つ企業は、投資家から43%高い信頼を得ていることが示されています（出典）。この信頼が、資金調達、パートナーシップ、市場参入の機会を広げるのです。LRQAの役割は、厳格かつ洞察に富んだ検証を通じて、その信頼性を提供することです。」



シルビア・マタブエナ
気候変動専門家 | EMEA

スコープ3は依然として大きな課題です。組織はどのように取り組むべきでしょうか？

シルビア・マタブエナ：「スコープ3の規模と複雑さに圧倒される企業も多いですが、最大のリスクは“何もしないこと”です。まずは重要性に基づくアプローチから始めましょう。影響が大きく、自社が影響を及ぼせるカテゴリに注力することが鍵です。

また、サプライヤーとの早期連携も重要です。多くの企業が、協働によってデータの質を高められることに気づいていません。LRQAでは、検証の経験とEiQのようなデータ分析ツールを組み合わせ、トレーサビリティと透明性を高めるサプライヤー連携プログラムの構築を支援しています。」

今日のGHG報告において、優れた報告とはどのようなものなのでしょうか？

シルビア・マタブエナ：「優れたGHG報告は、単なるデータの提出ではなく、ビジネスへの統合です。先進的な企業は、排出量指標を経営判断に組み込み、リアルタイムのインサイトでパフォーマンスを監視し、目標を財務成果と結びつけています。

また、年次報告にとどまらず、継続的な保証を行っています。EiQのようなツールを活用することで、新たなリスクを可視化し、柔軟に対応できる体制を整えています。今、求められているのは、静的なコンプライアンスから動的なサステナビリティ・リーダーシップへの転換です。」



GHG報告の準備：信頼できる 報告のためのチェックリスト

現在の状況を評価し、実践的なステップを踏むために、以下のチェックリストをご活用ください：

- ☐ スコープ1、2、3のGHG排出源を把握する
- ☐ 組織の境界（財務的支配か業務的支配か）を選定する
- ☐ データの管理者と社内の報告フローを明確にする
- ☐ スコープ3の各カテゴリにおける重要性を評価する
- ☐ サプライヤーとの連携を開始し、データ収集を進める
- ☐ 適切な排出係数と算定手法を適用する
- ☐ GHGインベントリを見直す
- ☐ CSRD、CDP、SBTiなど主要な開示枠組みに整合させる
- ☐ 科学的根拠に基づく削減目標を設定し、進捗を追跡する
- ☐ サステナビリティ報告書やESG報告書で成果を発信する

お問い合わせ →



LRQAを選ぶ理由

LRQAは、サステナビリティに関する深い専門知識を持つ国際的な保証プロバイダーとして、以下の支援を提供しています：

- ④ ISO 14064-1および関連基準に基づくGHGデータの検証
- ④ CSRD、CDP、SBTi、ESG開示に関する独立保証
- ④ GHG報告体制の設計・導入・改善に関するアドバイザー
- ④ サプライヤー連携とリスク評価によるスコープ3対応支援
- ④ 社内チーム向けのトレーニングと能力構築支援

LRQAがGHGプロトコルの策定においてどのようにお役に立てるか、ESGの専門家にご相談ください。

お問い合わせ →

LRQAの特長とは？



グローバルな展開力：世界各国におけるローカルの専門知識と、拠点やサプライチェーン全体にわたる一貫したサービス提供



柔軟な対応力：現地訪問でもリモートでも、貴社の業務やスケジュールに合わせたサービス提供



確かな信頼性：国際的な基準や枠組みの策定にも関与する、信頼される検証パートナー



サステナビリティ重視：GHGやサプライチェーンデータに関する豊富な実績を持つ、世界有数のESG保証プロバイダー



お客様が現在の段階が、最初のステップから高度な排出戦略まで、どの段階にあっても、LRQA は信頼性、洞察力、パートナーシップを提供し、お客様が確信を持って前進できるよう支援いたします。”

61,000+
世界中のクライアント数

900+
ESG専門家

5,000+
従業員数

150+
対応国数

LRQA の独立した検証および報告書の保証を通じて、透明性を高め、ESG 企業目標を達成し、利害関係者の信頼を築きます。

ESGおよび検証サービス



LRQAについて

LRQA は、審査、アドバイザリー、検査、サイバーセキュリティサービスにおける数十年にわたる比類のない専門知識を結集し、データ主導の洞察に裏打ちされた、世界有数のアシュアランスパートナーです。お客様の最大の経営課題の解決を支援します。

150 カ国以上で事業を展開し、5,000 人以上のスタッフを擁するLRQA では、コンプライアンス、サプライチェーン、サイバーセキュリティ、ESG の定評ある専門家が、世界各地のほぼすべての業種にわたる、60,000 社を超えるお客様のリスクの予測、軽減、管理を支援しています。

LRQA はあらゆる活動において、従業員、お客様、地域社会、そして地球環境のために、より良い未来を形作

ることに全力を尽くします。

お問い合わせ

詳細については、<https://www.lrqa.com/ja-jp/> をご覧ください。



LRQA リミテッド
〒220-6010
横浜市西区みなとみらい2-3-1
クイーンズタワーA10 階